

学習指導部基本計画

1 はじめに（現状と課題）

本校の児童は、全体的に明るく素直であり、温かい雰囲気に含まれている。学級文庫・学年文庫・図書館の整備により、いつでも読書できる環境にあり、読書好きの児童が多い。教師による「読み聞かせ」では、どの児童も耳を傾け、懸命に教師の声を聴こうとする。音読・漢字学習・計算練習は、こつこつ努力する児童が多い。学習における発表活動では、積極的に自分の意見を述べる子もいるし、自主的に学習に取り組んでいる児童もいる。

しかし、指示されたことはできるが、自ら気づき、考え、行動できる子は少ない。また、挙手して発表することが苦手な児童もいて、話し合い活動では、一部の児童によって進められる場面がある。粘り強く、あきらめず取り組む力が弱い面もある。

学習指導要領総則に、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」とあり、また「言語活動の充実」も書かれている。

以上のような点から、本年度も、言語力育成の中核を担う「国語科」に焦点をあて、「基礎的・基本的な知識・技能の習得と、これらを活用しての思考力・判断力・表現力の育成」に取り組んでいきたい。

2 中長期的な目標

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得に努め、さらに知識・技能を活用する学習活動を充実させる。
- (2) とともに生きる心を持ち、仲間を大切にする態度を養う。
- (3) 教育環境の整備・充実と、その活用を図る。

3 本年度の具体的行動計画（※印は評価指標）

学習に対する基本的な心構えを共通理解し、指導に取り組む。

- ・ 授業中は鉛筆を使用する。
- ・ 授業開始のチャイムが鳴ったら、速やかに教室に入る。
- ・ 授業開始時に、休み時間とのけじめをつけるため、学年に応じて授業開始の挨拶をする。
- ・ 挙手の時は、静かに手を挙げ、指名されたら「はい」と返事をする。

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得に努め、知識・技能を活用する学習活動を充実させる。

◎基礎的・基本的な知識・技能の習得に努める。

- ・ 「話す・聞く・読む・書く」の活動を大切にする授業の充実に取り組む。このため、「話す・聞く・読む・書く」の目標を以下のように設定する。

	低 学 年 目 標	高 学 年 目 標
話 す	<ul style="list-style-type: none">・ 姿勢や口の形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりと話す。・ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら、筋道を立て適切な言葉遣いで話す。	<ul style="list-style-type: none">・ 相手を見て、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。・ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す。
聞 く	<ul style="list-style-type: none">・ 大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞く。	<ul style="list-style-type: none">・ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめることができる。

読む	<ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて、音読する。 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えが伝わるように、音読や朗読をする。 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえて、自分の考えを明確にしたりしながら読む。
書く	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きを習得する。 ※読み 100パーセント ※書き 80パーセント（次年度は100パーセント） 	

※ 話す・聞く機会の充実(学級活動・集会・行事等) 集会月1回開催

※ 基礎的・基本的な学力の定着をはかるために、「厚生タイム」の充実。

ドリル学習 年70回以上

◎知識・技能を活用する学習活動を充実させる。

・表現力(日記・作文・詩・記録・報告文)の育成。

※ 週1回以上書く時間を設定する。

◎伝統的な言語文化に親しみをもたせる。そのために、以下の目標を設定した。

低学年目標	高学年目標
<ul style="list-style-type: none"> 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。

(外国語活動)

・自ら進んで「対話しようとする」英会話の力をつけることを目標とする。授業の中で積極的に英語を使い、アクティビティーやゲームを取り入れ、楽しく英語学習に取り組めるようにする。

・ALTの英会話に触れさせることにより、英会話のリズムやテンポを身につけさせる。

※ ALTとともに行う授業 8回以上

(2) ともに生きる心を持ち、自他の人権を尊重する力を育てる。

(道徳教育)

・学校教育活動全体を通じて、道徳的な心情・価値の自覚。及び、自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力などを養うようにする。

(総合的な学習)

・自ら課題を見つけ、その達成のために、意欲的に学んだり考えたり、判断しながら、問題をよりよく解決する能力を育てるとともに、問題の解決や探究活動に主体的・協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方について、考えられるようにする。

(環境教育)

◎子どもたちが、環境について深く理解し、環境を守るための行動がとれるようになるため、学校における環境教育の充実を図る。

・総合的な学習の時間における環境に関する学習をはじめ、各教科・道徳・特別活動を通して実施していく。

(音楽教育)

◎表現したり聴き合ったりする活動を通して、音楽を愛好する心情や音楽に対する感情を育て、豊かな情操を養う。

・学校におけるすべての音楽活動の場(授業・集会・芸術鑑賞会・鼓笛等)において指導する。

(3) 教育環境の整備・充実と、その活用を図る。

(図書館教育)

◎図書館の運営と利用指導を充実させ、児童の学習活動を促進し、読み取る力や、豊かな心情を育てる。

・図書館を利用した学習。

・全校読書の取り組み

※ 水曜日の厚生タイムを読書の時間にする。

- ・ 児童の読書量の向上

※ 読書冊数 月 5 冊以上

(情報教育)

◎課題や目的に応じてコンピューター等様々な情報手段を適切に活用できる能力の育成に努める。

- ・ 調べ学習にインターネットを利用する。
- ・ 自分を表現する方法のひとつとして、情報機器を利用する。
- ・ 時代にあわせた情報モラルを育む。

※ コンピューター室の利用 年間 10 回以上

※ 情報モラル講座(高学年) 年 1 回

校内研修グループ基本計画

1 はじめに（現状と課題）

今年度より本格的に実施された指導要領では、学校の教育活動を展開する中で「基礎的・基本的な知識・技能を習得させ」これらを活用する学習を通して、課題を解決するのに必要な「思考力・判断力・表現力等をはぐくむこと」がねらいとされている。国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの領域の内容に、言語活動例が具体的に位置付けられ、知識・技能を活用する言語活動の充実が重視されている。

本校では昨年度より学習指導部と連携し、

◎物語の読解を中心にした基礎的・基本的な知識・技能の習得のための授業づくり

◎基礎的・基本的な知識・技能を活用する授業づくり

（平成23年度より本格実施される新学習指導要領を見据えて）

の二本を柱とし、「自分の思いを、言葉や資料を用いて表現する子ども」をめざして、国語科の研修に取り組んできた。

物語の読解に関しては、研究授業の事前・事後検討会や研修会で教師の教材の解釈の大切さや授業の組み立て方などを詳しく教えてもらう機会があり、「視写・書き込み・話し合い」の学習展開が定着し、子ども同士が聴き合いつながり合う授業づくりが確立されつつある。

活用に関しては、新学習指導要領にむけて意識を持って研修をしていくことができたが、本校における活用力の捉えがしっかりと確立できなかったこともあり、その先にある、「思考力・判断力・表現力等をはぐくむ」授業づくりが課題となっている。

児童の実態をみるに、本校の児童は行事などで主体的に活動できる子どもが多くいる。縦割り班活動などで上級生の姿から学んでいくことがその理由の一つだと思われる。

しかしながら学習における子どもたちの姿を見ると、構成を考えて文を書く、明確に伝えるように話す、話し手の意図をとらえながら聞くなど基本的なことができていない児童もいる。

物語の読解における「視写・書き込み・話し合い」の学習展開がさらに充実していくためにも、また、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、これらを活用する学習を通して、思考力・判断力・表現力等の力を身につけていくためにも、まず「話す・聞く・書く・読む」の基礎的・基本的な知識・技能を定着させていく必要がある。

2 中長期的な重点目標

- (1) 物語教材などの読解指導において基礎・基本の知識・技能を習得させるための学習展開を創造する。
- (2) 国語科における活用力について共通理解をもち、基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習を通して思考力・判断力・表現力をはぐくむための学習展開を創造する。
- (3) 外国語や情報教育に関しては、新しい学習内容や教具に対応できるよう、研修を進める。

3 本年度の具体的行動計画（※印は評価指標）

研究主題

「学び合う喜びを求めて」

～聴き合い つながり合う 授業づくり～

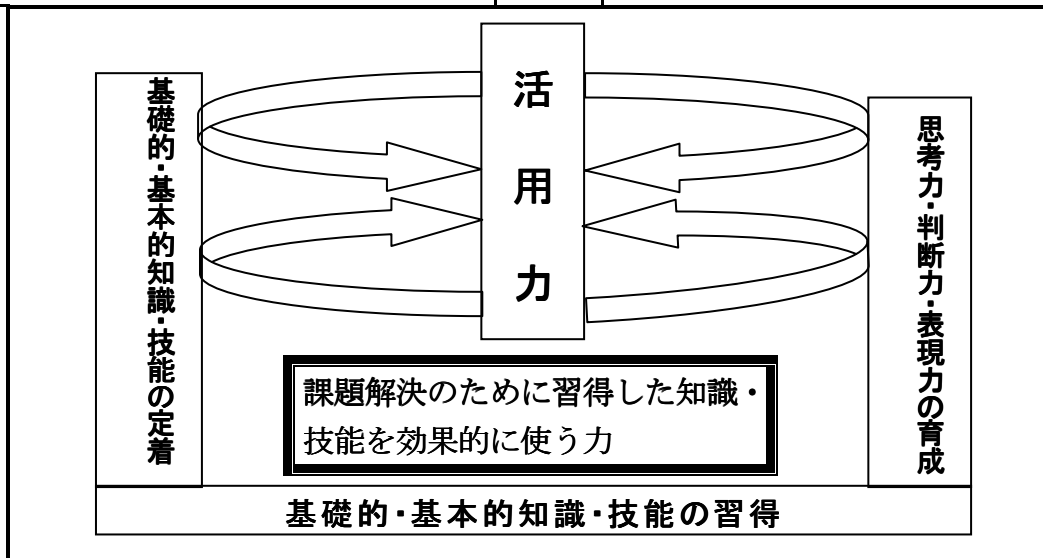
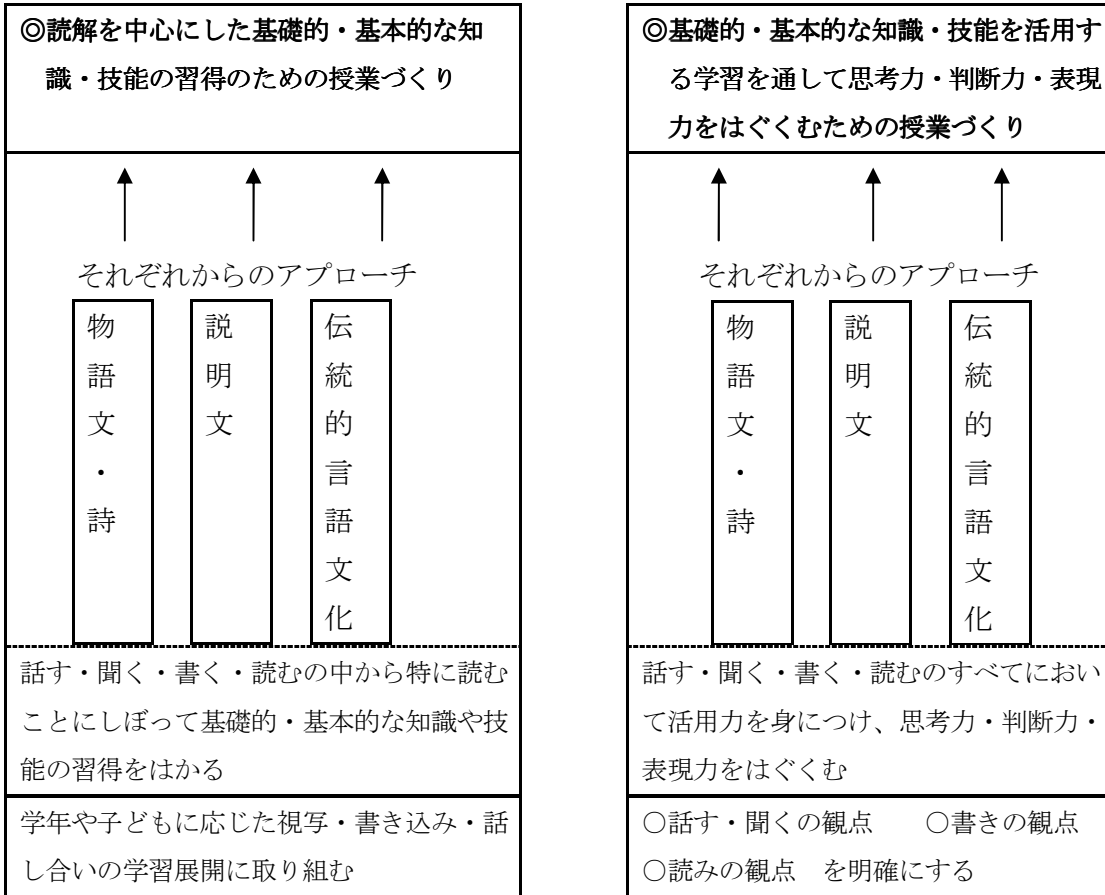
【国語科】

今年度も「互いの思いを聴き合い、みんなでつながり合いながら、学び合う喜びを求める子ども」をめざして国語科の研修に取り組んでいく。めざす子ども像を確立していくためにも二本の柱を立てて研修に取り組んでいく。

○研修に取り組むための二本の柱

◎読解を中心にした基礎的・基本的な知識・技能の習得のための授業づくり
 ◎基礎的・基本的な知識・技能を活用する学習を通して思考力・判断力・表現力をはぐくむための授業づくり

○それぞれの構想



○年間計画

月	活 動 内 容
4月	校内研修会：本年度の研究の方向性についての話し合い 20日（水）基本計画の作成
5月	20日（金）校内研修会：本校における「活用力」「基礎的・基本的知識・技能」の捉えについての話し合い（それまでに学年部で話し合う）
6月	8日（水）校内研修会：研究授業事前検討会 29日（水）研究授業（活用）【全体会】 事後検討会 講師 筑波大学附属小学校教諭 青木伸生先生
7月	教材研究 学年部公開の研究授業など
8月	17日（水）全体研修会：物語でつづける読解力「教材解釈と指導の仕方」 11月のグレードアップ総合推進事業授業研究の教材解釈など 講師：三重大学教授 橋本博孝先生
9月	教材研究 学年部公開の研究授業など
10月	教材研究 学年部公開の研究授業など
11月	2日（水）事前検討会（読解） 16日（水）事前検討会（活用） 25日（金）グレードアップ総合推進事業授業研究（研究授業と事後検討会を行う） *低・中・高から1クラスずつ5限目に3クラスの研究授業を行う ○読解の授業については三重大学教授の橋本博孝先生に事前検討会と当日の助言をお願いする ○活用の授業については指導主事に事前検討会と当日の助言をお願いする
12月	教材研究 学年部公開の研究授業など
1月	教材研究 学年部公開の研究授業など
2月	校内研修会：研究のまとめ「今年度の成果と課題」
3月	研究紀要作成

○授業研究の実施にあたっては

- ・ 共通した課題認識・意識改革・指導技術向上を図るため、事前・事後検討会をおこなう。
* 全体公開の場合は全体会で、学年部公開の場合は、学年部会でおこなう
- ・ 研究授業実施回数
* 一人一回以上（専科も含めて）
* 全体公開授業 低・中・高学年部 各1回以上（他は、学年部公開）
* 基本的に国語科とする（専科担当教科，人権の場合もあり）
* 学年部の研修会であってもできるかぎり指導主事などの助言者を招聘する

【外国語活動】

○積極的に「対話しようとする」英会話の力を付ける

具体的なゴール

「卒業時点で，一日の生活を英語でコミュニケーションをとりながら，対話できることをめざす。」

- ①英語のリズムやテンポを自然に見につけさせる。
・なるべく多く、英語を話しながら授業を行う。
- ②早期に授業方法を身につけ，児童が楽しんで授業に取り組めるようにする。

【情報機器活用】

○子どもたちの意欲や興味をより高めるために，情報機器の効果的な活用をする。

- ・ 全体研修会の実施
* 年間 2回以上